

## 世界平和に対する最大の脅威

平和統一 NEWS No.86 (2015/ 10 月号)

渡辺 久義

「世界平和に対する最大の脅威——国際法や慣習など意に介さず、思うがままに暴力に訴える権利をもった、ならず者国家」(ノアム・チョムスキー)

「民主主義を失っただけでなく、共感、他者に対する感情移入、道徳性、真率さ、真理への敬意、正義、忠実さ、それに自尊心をも失った国」(ポール・クレイグ・ロバーツ)

これはどこの国のことを言ったものか、ご存じだろうか？ そう、アメリカである。アメリカ人が自国を評して言ったものだ。チョムスキーは有名な言語学者で、現在は時評家として一目を置かれる人であり、P・C・ロバーツは、レーガン大統領の経済アドバイザーとして、かつて米政界の中核にいて、内情を知り尽くした人である。ロバーツの方は、米だけでなく、米の西側同盟国を含めて言っている。ここに現ワシントン政府のありさまのすべてが、見事に要約されていると言ってよいだろう。彼らは、自国が憎くてこんなことを言っているのではない。幻想を捨て真実に目を開けと言っているのである。これはなるべくしてなったことで、アメリカが急変したのではない。

このような国と安保条約を結び、その絆をもっと固くしようとするとき、この真実を知らなくてよいのだろうか？ 知らなくてよい、いや知ってはならぬ、と言っている人が多いように、私には思える。重大な契約は相手をよく調べてからするものだ。私は条約を破棄せよと言っているのではない。

更にこういう事実がある。今年行われたギャラップ世論調査で、「あなたは自国政府を脅威と感ずることがありますか？」という質問に答えたアメリカ人の、ほぼ 2 人に 1 人が「生命と自由への脅威を感ずる」と答えている。別の調査では、「あなたはアメリカ政府が墮落していると思いますか？」という問いに、75%のアメリカ人が「イエス」と答えた。

こうなれば、もう国家は国家の機能を失っていると考えなければならない。アメリカは国内的には、完全に警察国家となり、自国民から「星条旗を見ると背筋が寒くなる」などと言われ(創造デザイン学会 9/19 記事)、海外では、同盟国以外のあらゆる国から、悪魔、「殺人免許」をもった国と言われ、世界最大のテロ国家として君臨している。大量に動き出した難民も、ISIS も、彼らのつくり出したものである。全く報道されないから、イエメンのこと

を知っている人は少ないだろうが、今この瞬間も、イエメンでは、食糧、水、医薬品、電気などの供給を絶たれて、膨大な数の一般市民が死につつある。これはサウジアラビアとアメリカの共謀によるものだが、誰も彼らを恐れて救助に入る者がいない。これは多くのネット記事から間違いのないことだ。

我々はこういう国との同盟を強化した。

さらに我々が完全に誤解していることがある。メディアや保守派の論客は、いまだに冷戦時代の世界の構図——共産主義との戦いという図式——が通用するものと思って論じている。The Saker という鋭い論客が、「ソ連の崩壊後、ほとんど一夜にして、これまでのトロツキストがネオコンになった」と言っているように、世界の構図は一変して、敵はワシントン政府に移行したと見るべきである。今、かつての概念の共産主義、つまり無神論独裁の脅威などというものはない。あるとすれば、それはワシントンの奥の院からの指令による陰謀である。彼ら自身は無神論者などではない。りっぱな信仰者、神に反逆するルシファー教徒である。だからこそこれだけのことができる。地球乗っ取り計画（NWO=新世界秩序）などというものが可能になるのは、背後に霊的な力があるからである。

唯一の強大国による世界統一計画が、それ自体で悪なのではない。もしその強大国が世界全体を道徳的に指導できるほどの、誰よりも高い精神性をもっているとすれば、我々は喜んでその国に従うだろう。精神的な高位者に頭を下げないのは野蛮人にすぎない。しかし、P・C・ロバーツがあげている、アメリカ（と西側諸国）が失った一つひとつの徳性は、彼らが人間として最低レベルにあることを示している。今、彼らは世界で最も従ってはならない人々だ。おそらく彼らは、モーセの十戒のような最低限の戒律に、故意に逆らうよう行動している。ここに姦淫のことは書いてないが、いわゆるグローバル・エリート社会からの離脱者や反逆者の多くの証言によると、彼らの間で最も顕著なのがこの罪であるように思える。彼らはおそらく自分たちの滅びを意識している。それだけに危険である。

安倍首相には気の毒なので、あまり言いたくはないが、彼はウクライナのポロシェンコという、最もいかがわしい、ネオナチ傀儡大統領に会いに行った/行かされた。日本は無力なので断ることはできなかったのだろうが、これは明らかに国辱である。米との新しい軍事協約に入った我が国は、賢明な判断をして行動すべきである。先日の国会前デモのプラカードに「アメリカの傭兵はごめんだ」というのがあった。傭兵という概念が一般大衆の中に入ってきただけでも心強いではないか。